

令和2年度 学校評価アンケート結果、分析・考察と改善方策

上島町立弓削中学校

学校の教育目標は『知・徳・体の調和のとれた生徒の育成』です。

ランドデザインに基づいて、項目を起こしています。

結果：【4=あてはまる 3=おおむねあてはまる 2=どちらかといえばあてはまらない 1=あてはまらない ?=わからない】

評価：A=対象の80%以上が4または3 B=対象の70%以上が4または3 C=対象の60%以上が4または3 D=対象の60%未満が4または3

番	対象	評価指標	アンケート結果 (%)				評価	番	評価の分析・考察	今後の改善方策
			4	3	2	1				
1	教職員	「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」の達成に向けて具体的に努力している。	42	58	0	0	A	1	学校の教育方針に理解を示していただいている。学校行事等においては生徒が生き生きと活動する姿が評価されているように思われる。	3つの柱のうち確かな学力を育てることがまだまだ不十分である。今年度もいろいろな手立てを考えてきたが、今後はさらにその点に重点を置いた取組を考えていきたい。
	生徒	「学校は、『確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる』ために努力している。」と思います。	48	40	12	0	A			
	保護者	「学校は、『確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる』ために努力している。」と思います。	28	62	10	0	A			
2	教職員	心身ともに元気な生徒を育成するために、教育活動に工夫・改善を行っている。	33	67	0	0	A	2	コロナ禍で様々な制限を受けつつも具体的な対策を取りながら実施した運動会、文化祭やろ漕ぎ大会などの行事で、生徒が活発に活動する姿が多く見られていたためであると思われる。	全教職員で意見を出し合って、今後の状況に柔軟に対応し、生徒が生き生きと活動できる場面を増やしていきたい。
	生徒	元気に生き生きと学校生活を送っています。	48	40	12	0	A			
	保護者	「お子さんは、元気に生き生きと学校生活を送っている。」と思いますか。	48	30	10	7	A			
3	教職員	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	50	42	8	0	A	3	昨年度同様保護者の評価が低い。教職員・生徒と保護者の間で意識に差がある。生徒は学習したことが身に付いていると感じていても、家庭学習に結び付いていないため、保護者が実感していないと考えられる。	今後、授業での実態把握のもと、朝ドリルや学習タイム、学習相談などを通して、個に応じた指導の充実に努めていきたい。
	生徒	学習したこと基礎・基本が身に付いています。	33	55	12	0	A			
	保護者	「お子さんは、学習したこと基礎・基本が身に付いている。」と思いますか。	21	39	32	7	C			
4	教職員	指導法や指導体制の工夫・改善に努め、わかる授業づくりに取り組んでいる。	50	42	8	0	A	4	コロナ禍で授業を見る機会が少なかったにもかかわらず、昨年度に比べて教師の指導について、一定の評価が得られている。	継続して研究授業、自主研修等を通して授業力の向上に努めていきたい。
	生徒	先生たちは、わかりやすく教えてくれています。	57	40	3	0	A			
	保護者	「先生は、お子さんにとって分かりやすい授業づくりに努めている。」と思いますか。	13	78	9	0	A			
5	教職員	効果的な宿題の提示や自主学習の在り方など、具体的な指導に努めている。	42	33	25	0	B	5	保護者の意識は昨年度に比べて5%改善されているが、依然として教職員、生徒、保護者それぞれの意識に差があり、本校の課題である。	自主ノートの活用方法や授業ノートの見直しなど基本的なところから取り組む。特にインターネット学習支援サイト「みんなの学習クラブ」の活用を積極的に推進していく。
	生徒	家で宿題や自主学習、読書などを合わせて設定時間(1年1.5 2年2.0 3年2.5)以上しています。	34	29	26	10	C			
	保護者	「お子さんは、家で宿題や自主学習、読書などを合わせて設定時間以上している。」と思いますか。	19	28	21	32	D			
6	教職員	学校行事や体験的な活動は、創意工夫・改善するように努めている。	58	42	0	0	A	6	本年度も、制限を受けつつも、実施方法を工夫して体験的な活動ができたことはよかった。	様々な行事において、企画の段階で生徒からの提案も聞き、教員側も早く計画を立てることで、生徒が主体になって取り組むことができるようにしていくことも必要になってくる。
	生徒	学校行事や体験的な活動は、充実しています。	57	33	9	2	A			
	保護者	「学校は、学校行事や体験的な活動の充実に向けて努力している。」と思いますか。	35	55	10	0	A			
7	教職員	道徳や学級活動、人権集会などの充実を努め、自他の生命尊重や人権意識の高揚を図っている。	25	67	8	0	A	7	長島愛生園を訪問することはできなかったが、コロナ禍の新しい生活様式で、周りに気を配り、互いのことを思いやりながら行動することで、人権意識は高まっていると思われる。	道徳教育を充実し、道徳の授業だけでなく、地域での体験活動や地域の方々や保護者が参加する活動において、生徒が親子や地域の方々と話し合い考える時間を増やしていくことが必要である。
	生徒	自他の命の大切さを考え、いじめや差別のない学校生活を送っています。	81	14	3	2	A			
	保護者	「お子さんは、自他の命の大切さを考え、いじめや差別をしない行動をとっている。」と思いますか。	54	39	7	0	A			
8	教職員	全校運動(弓削中タイム)や部活動が、生徒の健全育成に向けた活動になるよう取り組んでいる。	0	91	9	0	A	8	弓削中タイムはあまり実施することができなかったが、みんなしっかり活動できていた。	本年度新体力テストを実施することはできなかったが、新体力テストの結果から本校の課題を洗い出し、弓削中タイムのメニューに反映させるようにすれば、より充実した活動になると思われる。
	生徒	全校運動(弓削中タイム)や部活動に一生懸命取り組んでいます。	69	26	5	0	A			
	保護者	「学校の部活動が、生徒の健全育成の手立ての一つとして活動できている。」と思いますか。	26	57	11	6	A			
9	教職員	基本的な生活習慣の育成に向けて、適切に指導している。	50	50	0	0	A	9	教職員・生徒・保護者とも昨年度より改善しており、特に保護者は15%以上上昇している。基本的な生活習慣が定着している生徒が増えている。	引き続き就寝時間やスマホに関する実態調査から改善策を考え、保護者に啓発していく。PTAとの連携は必要不可欠である。生活リズムチェックを続け、生徒自身にも基本的な生活習慣の育成に向けた自覚を促す。
	生徒	基本的な生活習慣が身に付いています。	43	43	14	0	A			
	保護者	「お子さんは、基本的な生活習慣が身に付いている。」と思いますか。	31	48	14	7	B			
10	教職員	進んで気持ちのよいあいさつができるよう、適切に指導している。	50	42	8	0	A	10	生徒のあいさつに対する意識は昨年度より高くなっている。あいさつに加え、会釈ができる生徒も増えてきている。	朝のあいさつ運動や部活動などにおいて地域の方々や他校の生徒、保護者、先生方に対して「気持ちのよいあいさつ」をすることの大切さを根気強く言い続け実践できるようにさせていきたい。
	生徒	気持ちのよいあいさつが進んでできています。	41	48	9	2	A			
	保護者	「お子さんは、気持ちのよいあいさつが進んでできています。」と思いますか。	36	50	12	2	A			
11	教職員	交通ルールやマナーを守って安全に登下校できるよう、適切にと指導している。	75	17	8	0	A	11	道路を横断する際の左右確認や、ヘルメット着用など交通ルールの遵守はほとんどの生徒が普段からできており、交通安全に対する意識が高い。	登校指導や交通安全教室においてはもちろんであるが、危険な場面に遭遇したり見かけた場合は、そのつど指導をしていくことが大切である。
	生徒	交通ルールやマナーを守って安全に登下校できています。	74	26	0	0	A			
	保護者	「中学生は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校できている。」と思いますか。	47	51	2	0	A			
12	教職員	アンケートや教育相談などを実施し、全教職員が協力して、問題の早期発見・早期対応に努めている。	67	33	0	0	A	12	生徒の評価は昨年とほぼ同じであるが、保護者の評価が7%向上していることを考えると、学校に対する信頼は厚くなっている。	定期的な教育相談だけでなく、いつでも相談できる体制や雰囲気づくりをしていく。また、小さな問題でも電話連絡や家庭訪問等を行い家庭との連携を密にし、常に情報交換を行う。
	生徒	困ったことがあったら、家の人や先生に相談しています。	45	31	19	5	B			
	保護者	「学校は、お子さんのことで相談した場合、誠意をもって対応している。」と思いますか。	31	55	6	8	A			
13	教職員	自ら清掃活動を一生懸命行い、生徒への指導もきちんと行っている。	58	42	0	0	A	13	一人一人が一生懸命行うことができています。	今後も継続して短い時間内でも生徒がさらに真剣に、時間いっぱい進んで取り組むことができる態度を育てていくことが大切である。
	生徒	清掃活動を一生懸命(黙働、皆働、静働)しています。	62	33	5	0	A			
	保護者	「学校は、校庭や校舎などがいつも美しく清掃や整備がされている。」と思いますか。	48	52	0	0	A			
14	教職員	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	75	25	0	0	A	14	毎学期違った場面を想定した避難訓練や防災教育を実施して、生徒に避難経路や避難方法の定着を行っている。今後も引き続き実施していきたい。	避難訓練が「訓練のための訓練」とならないよう、災害等の事例を紹介し、生徒の危機意識を高めることが大切である。
	生徒	地震(津波)、火事のとときや不審者に出会ったときの安全な行動の仕方を知っています。	59	40	2	0	A			
	保護者	「安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校である。」と思いますか。	39	59	2	0	A			
15	教職員	家庭や地域との連携を図るための手段を講じ、積極的に行っている。	58	33	8	0	A	15	休業の期間があったにもかかわらず、昨年度に比べ保護者の意識が7%改善されている。総合的な学習の時間、ホームページの更新、マチコミ、家庭訪問を通して積極的に連携した結果だといえる。	今後も継続して学校・保護者・地域が一体となった学校教育の機会を充実させる。学校便りやHP、マチコミ等を有効活用し、生徒の様子をリアルタイムに発信していくことが大切である。
	生徒	学校からの保護者へのプリントをきちんと渡しています。	53	34	12	0	A			
	保護者	「学校は、家庭との連携を図るための手段を講じ、積極的に行っている。」と思いますか。	25	59	10	6	A			